7月の生活表

2022年 7月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：あらかわして

・保育日数（20日 / 13日）

月目標：<3歳児>・お休みの友だちや自分の身の回りのことを覚えて祈る

- ・保育者や友だちと一緒に遊ぶ中で、色々な思いを表すようになり、葛藤も経験する
- ・砂・泥・水などの感触を親しみ、思う存分楽しむ

（保）目にはみえにくい心の内に思いを寄せ、自己を表している様々な姿を受け止める

<4・5歳児>・ことば・歌・体で、（主を）賛美する。

- ・自分の思いや考えを態度や言葉にして相手に伝えることで、お互いの思いに気づき、関わり方を考えるようになる
- ・絵本やお話や歌などに親しみ、イメージ（想像の世界）をふくらませる

（保）気づきや発見を大事に受け止め、子どもが安心して喜んで表すことができるように支える

蝉の声が夏の到来を告げています。6月にしてのこの気温。「今日も暑いですね。」との言葉から始まる毎日です。夏休みを前に、この3ヶ月を振り返りつつ、子どもたちの成長に目を留めて共に感謝したいと思います。さて、先日、花組さんが経験したレッジョ エミリアの自主的な取り組み。自分自身を見つめるところから始まり、周りのお友だちのことを視野に入れて、関係性を広げ、自分の意思や気持ちをそれぞれが選んだ紙と絵の具を使っての表現。ご自宅に帰られての反応は如何でしたでしょうか。ホールという大きな部屋で、初めて出会う先生方の同席で、緊張した面持ちでしたが、ご指導くださった先生の一人ひとりへの言葉がけで、子どもたちも次第にほぐれていきました。自分の好きな紙を選び、事前に決めていたそれぞれの希望の色でその紙の上で表現。手・指・ローラー等を使い、どんどん自分の気の向くままにそれぞれの挑戦が始まりました。そして、次第に隣や向かいの姿に興味津々。次第にお邪魔していきましたね。その時には黙って「寄せて」を示したり、先生の「一緒にさせてあげて」の言葉に助けられつつなど、自分が「やってみたい」と思う意志を3歳児なりに体得して、1時間半と言う長い時間集中して楽しく遊ぶことができました。最初から「これを描く」と終始徹底していたお子さんもありました。活動へ興味関心を示し・挑戦（真似る）・自分の中での試行錯誤（思考）、それも何度も何度も。長い間の集中力後には、やり終えた満足感を味わったことでしょうか。それは「楽しかった」へと繋がり、振り返りで気づくことは次のステップへと発展するのです。子どもたちの毎日は、この様に興味関心を示せるものに出会うこと、その中で「遊びこむ」ことがとても大切です。大人による環境の投げかけも必要です。遊びこむことが、一生懸命に取り組めるようになることに他なりません。設定保育での集中力にも勿論繋がっています。その先には小中高へと繋がる、まずは幼稚園での「学びの芽生え」の毎日なのです。夏休みの日々にご有意義な体験を。

《チャレンコーナー》

7月聖句：主に向かって心からほめ歌いなさい。

(エフェソの信徒への手紙 5：19)

私が、教会に行っていて良かったな、と思うことの 하나가、「歌を歌う」ということです。日曜日の礼拝では、いつも数曲の聖歌を歌います。聖歌を歌えば、歌詞に込められたお祈りの心を、自分の思いとして表現することができますし、また言葉で祈るだけでは味わうことのできない、曲が付くことによる喜び、楽しみを経験することができます。いずれにせよ、聖歌を歌うと、心が元気に、前向きになります。なかなか私のような年齢になると、よっぽど歌が好きで何らかのグループに入っているか、カラオケに行くかしないと、歌を歌う機会がありません。

教会に行っていて良かったと思います。子どもたちも、歌うことが大好きです。朝のご挨拶の歌を歌い、礼拝の中で聖歌を歌い、保育の中で歌を歌います。もし、幼稚園で一日中、歌を歌うことがなければ、きっと子供たちはとても悲しくなってしまうことでしょう。子どもたちは、大好きな歌を歌うことで元気になり、また自分の中にあるエネルギーを、歌を通して表現しているのでしょう。

今月の聖書の箇所は、「獄中書簡」と呼ばれているものの一つです。作者のパウロは、キリスト教を宣教したが故に官憲に捕らえられ、牢屋の中から書き送った手紙です。厳しく辛い日々の中で、けれども彼は、喜びにあふれていました。

それは、獄中にあっても神様に守られていることを実感し、同じ信仰を持つ仲間たちの祈りと愛の奉仕が積極的に為されていることを聞いて、イエス様の救いが広がっていることを確信していたからです。彼は仲間にも勧めます。

「歌いなさい！」神様に賛美の歌を歌うことで、信仰が強まり、苦難を耐え忍ぶ力を与えられ、喜びと希望が増し加わることを、パウロは経験上知っていたのでしょう。歌は私たちに大きな力を与えてくれます

おたんじょうび おめでとうございませう

<生活指導>

☆夏の生活習慣を身につけさせませう。(自身の気付きと習慣の確立)

- ・日中の気温と、夜の気温の差を気にしながら、体調を整えませう。
- ・自然の風を体感させませう。(クーラーの使用頻度/適温設定27度に)
- ・手洗い、うがい・毎日の入浴(シャワー)・シャンプー・爪切り、耳あかなど、こまめにチェックさせませう。子ども自身も気付くように。
- ・冷たい物の暴飲暴食を避け十分な休息・バランスの良い食事を摂りませう。

☆夏の自然を親しみ、豊かな経験と活動をさせませう。

- ・身近な自然に触れて観察し、不思議な世界を知らせませう。
- ・夏の夜空・夕立・雷等の今の自然現象をご家族と共に親しんでませう。

☆1学期に身につけた生活習慣を崩さないように心がけませう。

☆今から夏休みの計画をしっかり立てて、子ども自身の心身共の自律(親の我慢が大切です)に向かって様々な経験を良い機会として捉えませう。

- ・家の中でのお手伝いの計画(役割分担)も大切です。
- ・身近な所での身近な経験、続ける根気を養い乍らの時間利用を有意義に。
遊園地と近隣の公園での遊びの違いを理解し、子どもの遊びへの工夫が養えるような場を考え、利用させませう。
- ・久々にお里帰りされる方もおられるでしょう。ご家族との繋がりを豊かに、そして大切にさせませう。
- ・時制(時の刻みを自分の身体で感じられるように)を身につけてませう。
- ・お手伝いを通して、文字・数字、そして段取りをつけることなどにも親しむ機会を持ってませう。
- ・新しい経験の中に生き物の図鑑や地図などの活用をお勧めさせます。
- ・絵本をいっぱい読んであげられるように、目標を決めるのも大切です。
(本の冊数のみでなく1週間に何日読んであげられたかな?
年齢により、同じ本の繰り返しも大切です。)
(読めても読んであげて下さい。子どもが読む時は声を出させて下さい。)

☆安心・安全に心がけませう。

- ・子どもたちの自転車の独り乗りには、必ず!前を走らせて下さい。
子どものおつかいには、常に安心安全を確認させませう

<クラス便り：各担任より>

<花組>

「冷た〜〜〜い！！」と満面の笑みで、水遊びを楽しむ子どもたち。気持ちのいいシャワーのお水を掛けてもらって...いざ！ミニプールへ！ん？え？「あったか〜い！？」「温泉みたい〜！？」と大笑い。ミニプールで子どもたちを待ち構えていた透き通ったキラキラのお水は、朝一番からお日様に照らされて...優しい温かさになって子どもたちを迎えてくれました。広々とした屋上で贅沢なお水遊び！何ともゆったりと幸せな時間です。楽しそうに黙々と自由に遊ぶ子どもたちは「楽しい！」「面白い！」「もっとやりたい！」を全身であらわしています。思う存分に楽しみたいと思います。

まだまだ幼く小さな花組さんですが、神様に御守りいただき、ご家族の限りない愛情に包まれて...入園からの三か月で沢山のことを吸収し、自分の思いを発揮し、お互いに刺激し合い・交わりながら成長してきました。お友達が出来るようになったことに気が付いて、ご自分も「出来るもん！」とやってみたら...「出来た！」と笑顔。ご自分でも出来ることに気が付いていなかったり、やろうと思ったこともなかったこともあります。でも、「出来た！」のです。この瞬間の驚きや喜びが一つ一つ積み重なって子どもたちの生きる力になっていくのだと思うと、どんなに小さなこともこぼさず受け止めてあげなければ、と痛感します。思う存分遊んだ後のお片付けの時間、みんなが一生懸命にお片付けをしている姿を見ながら「頑張っ〜」と椅子に座ってニコニコしながら見ている姿に思わず微笑んでしまうのですが、「〇〇くんもお片付けしてね〜」と先生に声を掛けられて、ハッ！とした表情「そうやったわ〜はいはい〜」とニヤリな姿。黙々とおままごとコーナーのオモチャを分類して片付けてくれるスペシャリスト！お片付けが終わったので「さあ！おトイレへ」となった時に、ポロっと出て来たオモチャも「はいはい、やりますよ〜」とトイレへ一目散のお友達を気にせず最後までお片付けをやりきってくれる頼もしい姿も。そんなお友達に「〇〇ちゃん、ありがと〜」と天真爛漫に言う姿も、どれもこれも微笑ましい花組のありのままの姿です。それぞれが自分らしさを持ちながら集団として同じことに向かって取り組む時には、個人差もありますし、ひとりひとりの思いもあります。個性を大切にしながら、お互いを思いやりながら助け合って物事に取り組めるクラスになっていって欲しいなと願っています。その為にも、それぞれが安心して自分の思いをしっかりとあらわせるように、改めて幼稚園での人的環境を大切に捉えてゆきたいと思います。花組さんにとっては、お隣にいてくれるpre-preちゃんやpre-preの先生の存在もとても大切に重要な人的環境です。自分よりも小さなお友達との出会い・交わりから生まれる様々な感情は花組だけでは芽生えない思いや気づきがあります。

一学期もラストスパートです！厳しい暑さに負けず健康に最後まで過ごせますよに。

花組さんにとり初めての行事『夏のお楽しみ会』もごございます！どうぞお楽しみに。
ご家族の皆様には引き続き一学期のお終いまでご理解とご協力を賜りたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

<赤組>

梅雨入りが発表されたものの、なかなか雨が降らず、梅雨を通り越して夏本番かのように日差しはどんどんと輝きを増しています。何もしていなくても外にいただけで額にじんわり汗がにじみ出て「ん～暑い！」と思わず口に出てしまう、そんな京都特有の蒸し暑さで夏の始まりを感じさせられる頃となりました。子どもたちはその暑さを嫌がるどころか「めっちゃ汗かいちゃった」と笑って何やら満足そうに教えてくれます。そのあとはゴクゴクと水分補給。しっかり子どもなりに暑さに対応し、その中での活動も楽しんでいるんだなと思います。園庭にはプールが設置され、夏ならではの思いっきり水遊びが出来る用意が整い、周辺のマット運びやプール内の掃除は子どもたちにお手伝いしてもらいました。「今日はプール入るの？」と毎日プール遊びを待ちわびている赤組さんです。そして、いつの間にか足元は「はだし幼稚園」になりました。登園すると「はだしようちえんにしよっと」と履いてきたばかりであろう靴下をさっと脱いでそのままホールへ、またサンダルを履いて園庭へと飛び出していきます。床や水、泥などの感触を直に味わったりと裸足でしか感じられない心地よさを感じているようです。明日から7月。進級して早3ヶ月、1学期は残り20日となりました。「夏」ならではの遊びや体験が出来ることを見つけて思いっきり楽しんでいきたいと思います。

以前クラスだよりでお伝えした通り全員出席が30回を迎え、今も更新中の元気な赤組の子どもたち。全員出席を毎回喜びますが、みんなが揃っているから嬉しいのではなく、回数が増えていくから嬉しいと思っていないか、少し不安でした。しかし、そんな考えをした私が間違っていたかのように、子どもたちの中にはしっかり「友だち」の存在があると感じる心温まる場面がありました。先日欠席の子が一人いた時のことです。欠席理由を出席確認の際に伝えているのですが、昼食時にふと「どうして今日〇〇ちゃんはお休みのなの？」と一人の子が私に聞き、欠席理由を伝えると「そうなんだ、、」とみんな心配していました。すると一人の子が「おうち帰ってから〇〇ちゃんのことお祈りしてあげよ」とポツリ、、。また、「〇〇ちゃんに会いたい人手挙げて！」ともう一人が。みんな当たり前のように「はい！」と手が挙がります。このようにその場にはいないお友だちをそれぞれが思い、心配し、会いたいと思えるその心に感動し、6人という少ないクラスであってもこのように集団を意識し生活できていると感じました。けれども、もちろん仲良しの中でもぶつかり合いはあります。お友達のことを思って教えてあげた言葉が強く聞こえてしまっていたり、相手にとってはお節介になっていたりとトラブルも起こりますが、その経験をしているからこそさらに友達を思い合える心が育つ

ではないかと思います。みんな大切な赤組の仲間！より深くより楽しい関係になれるよう少人数だからこそ丁寧に関わり、困った時にはいつでも一緒に考え、言葉の足りないところは補い、橋渡しが出来るように見守っていきたいと思います

さて、6月から約1ヶ月に渡って制作してきた七夕飾りもいよいよ佳境を迎えました。いちばん初めに作った「お野菜三種」から始まり、糊、ハサミ、クレヨンを駆使して、折り紙等が色々な飾りに変身しました。「今日は糊とハサミを使います」と使う道具を伝えると「今日は何作るんだ〜？」と楽しみに準備するくらい制作が好きな赤組さん。手・指先もさることながら、先生の話の聴いて（耳）前で作られる見本を見て触って（目）順番を覚えて作る（考える力）と、今、自分のもっている五感をフル活用して様々な難易度の飾りを作りあげました。どれもこれも力作揃いです。持ち帰る日をどうぞお楽しみに。そして「これは何て言う名前のお飾り？」「どうやって作ったの？」など子どもたちから聞きながら会話を弾ませて、ご家族で夜空を見上げ七夕の日を楽しんでいただけたらと思います。

<緑組>

「むかし、むかし、あるところにカタツムリが住んでいました。カタツムリには赤ちゃんがいなかったので、旅に出ることにしました。すると雨がふってきました…。そして蛙に会いました…」この物語…実は、自分たちの七夕飾りがホワイトボードにあるのを見て、子どもがその場で創作していたお話です。ホワイトボードを「絵本のページに見立ててお話を創れるなんて！」と邪魔をしないように必死に聞き取りました。自分の作品を探しながら、並んだカタツムリや蛙が「お話してるみたい」と嬉しそうに見つめる子どもの感受性の豊かさに、なにかホッとする安心感を覚えたのと同時に、「制作を楽しむ…」と言いながらその工程や出来栄えに目を奪われてはいけけないのだと…子どもの「楽しい」は「想像」と「創造」の中にあることを改めて教えられました。子どもの感覚は、ストレートで誤魔化しがありません。まっすぐな言葉に思わず笑わせてもらうこともあれば、悪気なく人を傷つけてしまう言葉の表現を耳にすることもあります。6月、体を動かせばじっとりと汗ばむジャンピング。椅子に座りなおしながら、ズボンを引っ張り「あのさあ、パンツがお尻の間のへんにくっついて気持ち悪いんだよ〜」と困っている子がいました。その姿があまりに可愛らしくて「パンツがくっつくのは、汗をかいているからよ」と話していました。その後…鉄棒に励む友達の後姿を見て気が付いたのでしょうか…「今、〇〇ちゃんも汗でパンツがくっついてたよ」と嬉しそうに報告してくれました。なんとも微笑ましい。もう少し成長すれば羞恥心が働き、また状況を判断する力が身につけてくると、ここまで正直に話してはくれなくなるのでしょうかね。一方で、成長するからこそ気をつけておきたいこと…「死」という言葉の遣い方です。お昼時、TVキャラクターが前提とした話題で「〇〇が△△して死んじゃった

～」「そんなんちゃうで」「〇〇は□□して死んじゃうんやで～」「あはははっ！！」と悪意のないありえないこととわかったうえでのやり取りを楽しんでいる面々。それを離れた席で聞いていた子がそれらのやりとりを耳にして、「本当に...命って大事なんだからね」と一人呟きました。そして楽し気に話をしている友達のところへ、「命は大事なんだよ」と普通に声を掛けに行っただけです。この子自身も、きっと話題の中心が「死」ということではないと分かっていたのだと思います。でも簡単に「死んじゃう」ことはないのだと、「死」と「命」は同じであることを自身の感覚として身につけているからこそ、思わず「大事なんだよ、本当に」と繰り返し、声にし、それを友達に知らせたかったのだと思います。「死」に繋がる言葉は、沢山あります。遣ってはいけないのではなく、「どう遣うか」が問題なのであって、杓子定規に「良い/悪い」を教え込むものではないと私は考えています。子どもたちが日々成長を楽しみにしている青虫も、野菜の苗も「死んでしまえば、枯れてしまう」ものです。「死」が面白く楽しいものではない意味を持っているからこそ、その言葉を軽んじてはならないことを意識しなければなりませんね。同時に今の社会は、理解する前に多様な視覚的媒体を通して、多くの情報が飛び込んできます。ものごとの本質を見極める土壌が不確かな年齢、その成長期に、何を与えるか...本当にしっかりと私たち自身が見極めを求められているように感じます。ある日世界地図のパズルを完成させた子どもが「先生ウクライナどこ？」と尋ねてきました。「ぼく知ってるで、ここがロシアやろ」と地図上を指さしました。世界に目を向ける、関心が向くことはとても喜ばしいことだと思います。ただ、そのきっかけが連日報道される「戦争」に起因していることに複雑な気持ちになったのも事実です。子どもたちが「平和にくらせますように」とお祈りする言葉が、今まで以上に重く現実味を帯びて感じられる毎日です。

季節は夏へ...！曇天空を散らかして、燦燦と照る太陽の下、賑やかな蝉の鳴き声に負けないくらい子どもたちが弾ける季節です！！今年は、「夏のお楽しみ会・ゲーム大会」も再開！そしておっかなびっくり「宿泊保育」も帰ってますよ～～！！目下子どもたちとプログラムを検討中。「何食べる？」「ピザ～！」「何したい？」「花火～！」とお泊りのイメージが少し捉えられるようになってきました。どんなことができるかな？？改めてお知らせいたします。お楽しみに！